

学校教育における福祉教育のあり方を探る

I 研究の内容

- 1 各校の福祉教育の実践や様々な実践例から学び合う。
- 2 福祉教育のあり方を探りながら、研究授業に向けて部会員全員で授業づくりを行う。
- 3 理論研究、施設見学を通して、福祉について理解を深める。

II 実践・研究授業

1 各校の実践報告・実践事例学習会

各校の福祉教育の実践や部員各自が検索した実践事例から互いに学び合い、そこから統一授業研の授業づくりに向けて方向性を話し合った。

2 施設見学

○救護施設「鈴宮寮」の見学

生活保護法第38条による救護施設であり、身体または、精神上的の障害により、独立して日常生活を営むことのできない要保護者を入所させ、生活扶助を行う施設である。

<学習内容>

- ・鈴宮寮のしくみや生活について
- ・仕事内容や苦勞、願いについて
- ・館内の見学

3 研究授業

(1) 第3学年 総合的な学習の時間

「自分にできるボランティアを見つけよう」

神金小学校 三森 明美 教諭

ア. ねらい

○世の中には助けを必要としている人がいることに気づき、話を聞いたり、交流したりする中で、自分の生き方、考え方を見直し、実践につなげることが出来る。

イ. 本時の学習

- ①夏休みに挑戦した「できたよカード」を見ながら、自分がやったことを思い出す。
- ②教師の手話を見て、手話は誰のために必要なのか、どうして必要なのか考える。
- ③「何と言っているかゲーム」をする。

- ④世の中にいる生きていくことがたいへんな人が、どんな助けを必要としているか考える。
- ⑤世の中にいる生きていくことがたいへんな人のために、どんなことができるか考える。
- ◇授業の導入で、前時の振り返りから、指導者の手話、ヘレンケラーの提示、口話ゲームへとテンポよく進めていたことはよかった。
- ◇手話を見せたとき、手話の難しさを感じ取ったのではないだろうか。
- ◇経験のなさからか、口話ができない子がいた。声がないとわかりにくいことはわかったようだ。「しゃべれない人の気持ちがわかった。」という感想から、ゲームから得るものがあつたのではないか。
- ◇「生きていくことがたいへんな人」のためにできることを考えるワークシート「こんなことができるよ」に集中し真剣に書いていた。
- ◇「不自由な人」のとらえ方について、今現在の子どもたちの状況、大きな目標に向かう入り口として、今日のような切り口でよいととらえ、次第に広く日常に広げていったらよいのではないかと思う。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・道徳、学級活動、総合的な学習など様々な領域にわたって「福祉」の授業や取り組みを実践できることを学んだ。また、朝の会や帰りの会、日常の生活の中での実践についても学ぶことができた。
- ・「ともに生きる」福祉の心を育むことは、学級づくり、集団づくり、いじめの防止など、今日的課題の多くに対するアプローチになり、関連性をもって実践することができた。
- ・研究授業の検討や実践報告では、先生方の持ち寄った資料や日頃の実践を交流し合い、よい学習の場となり、自分の学級や学校で実践につなげることができた。
- ・夏季学習会では、救護施設「鈴宮寮」を見学し、東山梨の福祉施設について学ぶことができた。

2 課題

- ・学校教育の中にどれだけ福祉教育を取り入れていけるのか。福祉に関わる学習の時間を確保し、福祉教育を学校教育の中に効率よく効果的に取り入れていきたい。
- ・他郡や他県の学校では、どのような福祉教育を行っているのか、もっと広く学ぶ機会があるとよいと思う。県教研、全国教研では、福祉教育はなく、平和人権国際連帯・環境教育に属しているが、総合的な学習としても含まれるなど、県や全国と合致していないので、難しい面がある。
- ・部員の人数が少ないので多くの人に入っていただきたい。また、中学校の先生にも入っていただき、小・中学校連携の福祉教育について学びたい。

(部長 三森 敏彦)